

平成30年度第5回津山市ファシリティマネジメント委員会 議事概要

日 時 :	平成31年1月16日(水) 午後1時30分 ~午後2時30分	場 所 :	津山市役所2階 第2委員会室
出席者			
【委員】	藏田委員長、大山副委員長、小西委員、有宗委員、赤井委員、小山委員、西本委員、岡本委員		
【津山市】	津山市長、財政部長、財産活用課長、財産活用課主幹、財産活用課職員		
【傍聴人】	2名		
欠席者	菅田委員、北村委員、上田委員		
1. 開会	委員11名に対して8名の参加で、委員会の成立を宣言。		
2. 委員長あいさつ	藏田委員長挨拶。		
3. 答申	藏田委員長から、谷口津山市長に答申書提出		
4. 市長あいさつ	谷口津山市長挨拶		
5. 報告事項	《事務局より報告》		
	・平成30年度長寿命化基金実績報告について		
	○地域防災施設・災害時緊急車両拠点塗装改修 ○津山市コミュニティセンター屋上防水改修 ○ウッドィハウス加茂屋根瓦修繕 ○戸島学校食育センター排水改修 ○鶴山塾門解体 ○市営住宅(林田)解体 ○阿波民具展示館解体 ○弥生の里文化財センター中庭樹木伐採 ○一宮公民館浄化槽修繕 ○その他		
6. その他			
委員 :	平成30年度基金事業で林田市営住宅の解体を行っているが、用地の利用計画は決まっているのか。		
事務局 :	市営住宅に限ることではないが、用途廃止、除却後の資産は売却を基本として考えている。 しかしながら、八出の市営住宅跡地は、隣地の方に売却できたが、中々買い手が見つからないのが現状である。今後も、計画的に解体・売却の流れを推し進めていきたい。 林田市営住宅は過去より政策空屋となっていたもので、今後、機会を見て公募、売却の手続きを進めていきたいと考えている。		
委員 :	林田市営住宅跡は、何坪ほどの面積なのか。		
事務局 :	約1,000㎡程ではないかと思われる。		
委員 :	地域防災施設(アルネ)は、以前、委員会で初めて写真を見たときには、老朽化に驚いた。今回、基金で修繕されたことは、嬉しく思う。		
委員 :	自分は、買い物等で利用することがあるが、以前からペンキが剥げ落ちてみじめな姿と		

思っていた。アルネは津山の顔のような施設である。今回、修繕できることは望ましい。

委員 : ウッディハウス加茂とは、どのような施設なのか。

事務局 : 宿泊保養施設である。

委員 : 使用頻度はどの程度のものなのか。

事務局 : 併設に加茂体操施設がある。これは、県内外から多くの利用者が合宿等に利用する施設であり、その宿泊地として整備された施設である。利用率を民間ホテル等と比較すれば、劣るところはある。

委員 : たまに行くときにバスが止まっている様子を見たりする。ウッディハウス加茂で食事を作り、スポーツロッジ弥生荘に運搬するようなことを聞いたが、今もしているのか。

事務局 : 共に整備公社が運営しているので、そのような実態はあるかもしれない。

委員 : ここ数年は食事提供はウッディハウス加茂がメインのように聞いている。

委員長 : 基金事業を見れば緊急性の高いものから優先に事業化していることが分かる。手を入れたからには、より有効に活用するよう考えなければならない。改修して良かったでは不十分である。

委員 : 一宮の公園の浄化槽の話は知らなかった。市のポンプ場を譲り受けて建物を解体したことがあるが、近隣の方も駐車場になると喜んで頂いている。市有財産は、不要であれば、早急に手放して売却に向けて動く方がいいと思う。

委員 : コミュニティセンターとは、どんな施設なのか。

事務局 : 市民活動拠点であったが、機能をリージョンセンターに異動させたため、来年度からシルバー人材センターに貸付を行うこととしている。場所は井口にある。

委員 : 弥生の里文化財センターの木はもう伐採したのか。

事務局 : これからである。

委員長 : 根が路盤や地下配管を破壊しているように聞いたが、根ごと除去するのか。

事務局 : 根の除去は大がかりな工事になりすぎるため、伐採のみになる。これ以上の被害を起こさず、現在の破損した路盤の修復のみ行う計画である。

委員長 : 今後、中・長期的に進めていく事業について、どのような基準で実施して、結果どのような効果がもたらされたのか検証を行い、発信すれば良いと思う。予防に向けた職員研修や市民ボランティアの活用なども考えてみたら良い。

委員長 : 今回が年度最終の委員会となる、各委員、感想、今後の展望など何でも良いので意見を伺いたい。

委員 : 今年度はプールに焦点を当てて検討してきた。答申として形になったが、行政にはその行動の結果を見せて頂きたいと思う。

委員 : このような会には中々、参加する機会は得られない。今回は良い経験をさせて頂いた。

委員 : 委員会を通じて、施設の運営を学べた。良い経験になったと思う。

委員 : 一般の市民は、施設を利用する際に、費用なんて考えてはいない。市民には、それを知る権利があると思う。市民一人ひとりが施設運営について考えていかなければならないと感じる。

委員 : 自分は4年間委員を務めている。当初発足時と比較して委員会での協議内容も実際のFMの取り組みにも言及するような具体的なものとなってきたと感じている。この流れをどんどん先に繋げて行って欲しいと思う。

委員 : 本年はプールについて検討した。自分はそれ以前から小中学校のプールの在り方には疑問を感じてきていたので、有意義な議論が出来たと考えている。

委員 : 自分は昨年度から委員を務めている。就任当初は、中々、理解できなかったが、今では、「勿体ない」、「始末してしまえば良い」といった当たり前の感覚を当てはめていくことが、FMの基本だと感じている。
今後も費用効果の見える施策を推進して欲しいと考える。

委員長 : 本年は委員各位の協力を頂いて、すばらしい取り組みができたと考えている。委員各位、市職員、市長の協力の下、今回の答申に繋がった。
FMの取り組みは一朝一夕に成果を得られるようなものではない。今後も関係者の協力の下、粘り強く取り組みを継続させていきたい。
もっともっとできると思うので、これからも投げ出さずに良い形で推進させなければならない。
行政には今回の答申を真摯に受け止めて、実現に向けた努力をしていただきたい。

7. 閉会

大山副委員長挨拶